

# intra-mart 人事管理システム ver4.0

## リリース・ノート

2003/09/05

### 1. バージョンアップ内容

以下にこのバージョンで変更になった点を列挙します。

なお、各機能の詳細に関してはマニュアルを参照して下さい。また、各機能の設定方法に関しては、マニュアルまたはインストールガイド等を参照して下さい。

旧 Version の人事管理システムからの移行はできません。

#### ◆ バージョンアップ内容(詳しくは、マニュアルまたはインストールガイドを参照して下さい)

- ✓ 全体
  - BM ver4.0 に対応しました。
  - 画面デザインを一新しました。
  - 滞留年数出力フォーマットの書式が設定できるようになりました。現状、固定で「XX.XX 年」というように出力されていたものが、例えば「 年 ヶ月」という表示が可能になります。
- ✓ 組織マスタ
  - 組織に対して更新処理を行うとき、社員が所属している場合には削除ボタンを表示しないようにしました。
- ✓ 異動情報
  - 異動情報の昇給処理において、その理由を設定することができるコンボボックスを追加しました。
- ✓ 帳票印刷
  - 帳票印刷出力時のパフォーマンスを向上しました。
  - [帳票印刷]-[台帳]に「組織図」を追加しました。
  - [帳票印刷]-[発令管理]-[辞令]の辞令印刷に、「採用辞令」・「退職辞令」・「兼任の解任辞令」・「休職の復職辞令」を追加しました。
- ✓ 人事異動メンテナンス(詳細は人事異動メンテナンスマニュアル(hr\_ido\_V40.pdf)を参照してください。)
  - ODBC 接続に対応しました。

## 2. システム要件

intra-mart ベースモジュール ver4.0 は Java ベースで開発されています。従って、基本的には Sun JDK1.3.1 が動作するプラットフォームであればどこでも動作可能です。なお、WebServerConnector は Java ベースではなく、環境に依存した実行可能形式ファイルでの運用となりますので、ご利用になられる実行環境に合わせてソースファイルをコンパイルしてご利用ください(弊社においては、下記表に示す環境で動作を確認しております)。

人事管理システムは、Oracle のみ対応しています。

以下、弊社動作検証済み(推奨)の intra-mart 製品と他社ミドルウェア製品との組み合わせを記します。

intra-mart 製品	Java ランタイム	サーバ OS (*1)	Web サーバ および バージョン	Web サーバと intra-mart の接続形態	データベース(*2)
intra-mart ベースモジュール ver4.01 (ver4.0 + パッチ 1 以上) + intra-mart 人事管理システム ver4.0 (Ver 4.0.0)	SUN JDK1.3.1_06  Redhat 場合 JDK1.3.1_04	Windows2000 (SP2)	Sun ONE Web Server Enterprise Edition 6.0 ja	NSAPI	Oracle 9.2
			Microsoft IIS 5.0 (*3)	ISAPI	
			Apache2.0.43(DSO サポート版)	組み込みモジュール(mod)	
		Solaris 8	Sun ONE Web Server Enterprise Edition 6.0 ja	NSAPI	Oracle 9.2
			Apache2.0.43 (DSO サポート版)	組み込みモジュール(mod)	
			Apache Apache2.0.40(DSO サポート版)	組み込みモジュール(mod)	
Redhat Linux 8	Apache Apache2.0.40(DSO サポート版)	組み込みモジュール(mod)			
人事異動メンテナンス		Windows2000 Professional (SP4)			Oracle 9.2 (ODBC 接続)

(\*1) 弊社で動作確認をしているハードウェアは下表の通りです。

OS	ハードウェア
Windows2000	PC/AT互換機(DOS/V)
Solaris 8	SUN ULTRA SPARC
Redhat Linux 8	PC/AT互換機(DOS/V)

(\*2) データベースへの接続方法に関しては、下表をご覧ください。

データベース製品	接続方法	接続に必要なソフトウェア
Oracle 8.1.7以上	JDBC接続(THIN接続)	Oracle JDBC Driver 9.0.1

人事異動メンテナンスはODBCでOracleに接続します。弊社動作確認済みODBCドライバはOracle ODBC Driver 8.01.07.00です。

(\*3) IIS5.0を利用する場合は、IIS稼動OSがWindows2000sp2以上である必要があります。

(注意)

・弊社では上記環境でのみ試験を行っております。

・Web サーバおよびDB、その他のモジュール稼動に必要な稼動環境情報(リソース、メモリー量等)につきましては、各製品(各アプリケーション)の Web サイトなどをご確認ください。

・intra-mart ベースモジュール ver4.0 を稼動させるには、OS、Web サーバ、DB とは別に 256M のメモリーを必要とします(推奨 512M 以上)。

\* メモリ設定はインストール時に適切に設定して下さい。また、インストール後に設定を変更することもできますので、環境および利用状況に合わせて適宜チューニングを実施して下さい。

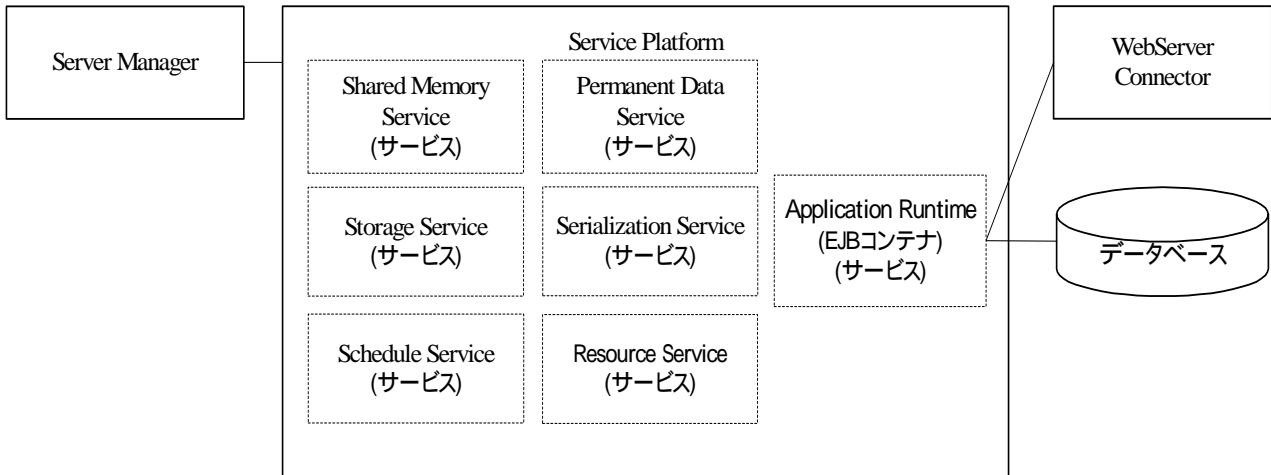
・稼働に必要な Java ランタイムは下記の URL より入手する必要があります(2003/2/22 現在)。

「 <http://java.sun.com/j2se/1.3/ja/> 」(Java ランタイム)

「 <http://java.sun.com/j2ee/ja/index.html> 」(J2EE)

・DB (Oracle) 接続で使用する Oracle JDBC Driver 9.0.1 JDBC ドライバーは Oracle8.1.7 以上での接続を対象としているドライバーです。

・稼働する環境図 (一例) を下記に掲載します (\* StandAlone 型の場合は1台のサーバマシンによる運用となります)。



#### ◆ サーバ要件

##### < Windows 2000 版 >

- ハードウェア -

・PC/AT 互換機(CPU の動作クロックが 1GHz 以上を推奨)

・256MB 以上の RAM(OS やその他のソフトウェアが動作するために必要なメモリが別途必要です)

注意 作成されるアプリケーションで多くのメモリーを必要とする処理を想定されている場合や、想定ユーザー数等が多い場合は、より多くのメモリーを必要とします。この点を御考慮いただき必要となるメモリー容量を御算出下さい。

・ハードディスク領域: 200MB (intra-mart ベースモジュールのみ)

30MB (人事管理システムのみ)

注意 実行するシステムの規模や登録データ量により運用時に必要なハードディスク容量は変化します。また、Storage Service および Permanent-Data Service は、管理するデータ量に比例してハードディスク容量を必要とします。ログ機能の利用や長期間の運用も考慮し、十分な空き容量を確保してください。

- ソフトウェア -

「3. システム要件」に準ずる。

##### < Solaris 版 >

- ハードウェア -

・Solaris8 の稼働可能な Sparc アーキテクチャマシン機種(Ultra Sparc 650MHz 以上を推奨)

・256MB 以上の RAM(OS やその他のソフトウェアが動作するために必要なメモリが別途必要です)

注意 作成されるアプリケーションで多くのメモリーを必要とする処理を想定されている場合や、想定ユーザー数等が多い場合は、より多くのメモリーを必要とします。この点を御考慮いただき必要となるメモリー容量を御算出下さい。

・ハードディスク領域: 200MB (intra-mart ベースモジュールのみ)

30MB (人事管理システムのみ)

注意 実行するシステムの規模や登録データ量により運用時に必要なハードディスク容量は変化します。また、Storage Service および Permanent-Data Service は、管理するデータ量に比例してハードディスク容量を必要とします。ログ機能の利用や長期間の運用も考慮し、十分な空き容量を確保してください。

- ソフトウェア -

「3. システム要件」に準ずる。

##### < Linux 版 >

- ハードウェア -

- ・Redhat Linux 8 の稼動可能な PC(CPU の動作クロックが 1GHz 以上を推奨)
- ・256MB 以上の RAM(OS やその他のソフトウェアが動作するために必要なメモリが別途必要です)

注意 作成されるアプリケーションで多くのメモリーを必要とする処理を想定されている場合や、想定ユーザー数等が多い場合は、より多くのメモリーを必要とします。この点を御考慮いただき必要となるメモリー容量を御算出下さい。

- ・ハードディスク領域： 200MB (intra-mart ベースモジュールのみ)

30MB (人事管理システムのみ)

注意 実行するシステムの規模や登録データ量により運用時に必要なハードディスク容量は変化します。  
また、Storage Service および Permanent-Data Service は、管理するデータ量に比例してハードディスク容量を必要とします。  
ログ機能の利用や長期間の運用も考慮し、十分な空き容量を確保してください。

- ソフトウェア -

「3. システム要件」に準ずる。

#### ◆ ブラウザ要件

- Netscape Communicator 4.7 以上(Netscape6 および Netscape7 を除く)
- Microsoft Internet Explorer 6 以上の Windows 2000/XP 版ブラウザ  
弊社動作検証済ブラウザは以下の通りです (動作検証済バージョンのブラウザを御推奨いたします)。
  - Windows2000 + Microsoft Internet Explorer 6.0
  - Windows2000 + Netscape Communicator 4.78
  - WindowsXP(Home Edition) + Microsoft Internet Explorer 6.0
  - WindowsXP(Home Edition) + Netscape Communicator 4.78

### 3. 制限事項

当ソフトウェアが動作する環境において、他のソフトウェア等をインストールした場合、dll 等のバージョンにより障害が発生する場合があります。

- (1) クライアントの Web ブラウザに Microsoft Internet Explorer6.0 をご使用の場合、次の制限事項があります。
  - ファイルのダウンロード機能を使用した時、ダウンロードに失敗したり、ダウンロード成功後 CSJS スクリプトが動作しなくなる場合があります。CSJS スクリプトが動作しなくなった場合には、該当画面を再読込後、作業を再開してみてください。
- (2) intra-mart の各サーバを別々のコンピュータにインストールする場合、次の制限事項があります。
  - intra-mart の各サーバをインストールするコンピュータは全て、時計(コンピュータのシステム時計)を合わせて下さい。時計が大幅に違っていたり、コンピュータごとにシステム時間が違っていると、アプリケーションおよび各サーバプロセスが正常に動作することができません。
- (3) Windows2000 を Storage-Service として使用している場合、ユーザ ID やログイングループ ID を大文字・小文字の区別をして登録すると、以下のような不具合が発生する場合があります。
  - ベースモジュール、StartPack、Web メールなどの intra-mart パッケージでは、メールの添付ファイルなどをファイルへ保存する際、ファイル名、フォルダ名にユーザ ID やログイングループ ID を使っています。よって、Windows (NT/2000) を Storage-Service のプラットフォームとして使用している場合、ユーザ ID やログイングループ ID を大文字小文字の区別をして登録すると、違うユーザの情報が同じファイルに出力されてしまいます。(Windows (NT/2000) のファイルシステムでは、ファイル、フォルダ名の大文字小文字を区別しないため)  
例)ユーザ ID を master と MASTER などとして区別している場合、master のメール添付ファイルの内容と、MASTER のメール添付ファイルの内容は、同じファイルに書き込まれます。
- (4) Unicode で使える範囲の文字であっても、Java-VM の文字コード変換機能の制約により各文字コード間で正常にコード変換されない文字があります(「~」文字など)。
- (5) **データベースを利用する際の注意点**

各データベースベンダーが提供している JDBC の実装により、一部の文字が化けるという問題があります。

  - (a) 弊社では、下記ドライバを使用したときに以下の全角文字が化ける( ? 文字に置き換えられる)ことを確認しています。(環境により一部異なる場合があります。また、データベース入出力に関する機種依存文字対応機能をご利用になられている場合は、この限りではありません。)

#### ● Oracle JDBC ドライバを使用したとき文字化けする文字一覧

テスト環境: Oracle 9.2.0  
Oracle JDBC Driver 9.0.1 (THIN)

ミリ キロ メートル グラム トン 斤 匁 トリ 如 ドル 円 銭 両 分  
mm cm km mg kg cc m<sup>2</sup> ” „  
KK  
⊕ ⊗ ⊙ ⊚ ⊛  
(株) (有) (代) 聯 証 聯 靴

#### (a) 機種依存文字対応機能(文字化けを防ぐ機能)を利用する場合の注意点。

- 以下の制限があります。
  - ・ データベースにデータを保存する場合、機種依存文字を含む文字列データはエンコードされるため、通常よりも保存するデータ量が多くなります。
  - ・ データベースにはエンコードされたデータが保存されるため、他のシステムでは正しく取得できないことがあります。
  - ・ データベースとの入出力データ量に比例してサーバに負荷がかかります(この機能を有効にした場合、この機能を持つ API のレスポンス速度が低下します)。
- 本機能の対象となる機種依存文字は以下の通りです。

--

ミリ キロ キロメートル グラム トン アル ヘル ツェッ カロ ドル セン ベー シル ベー  
 mm cm km mg kg cc m<sup>2</sup> " „ KK.  
 上 中 下 左 右 (株) (有) (代) 贈 証 贈 職

- また、関連するAPIは下表の通りです(APIの仕様に関しては、APIリストを参照して下さい)。

- ・ ページベース開発モデル

- ・ `Module.database.select()`
- ・ `Module.database.fetch()`
- ・ `Module.database.execute()`
- ・ `Module.database.insert()`
- ・ `Module.database.update()`
- ・ `Module.database.remove()`
- ・ `Module.database.insertData()`
- ・ `Module.database.updateData()`
- ・ `Module.database.deleteData()`
- ・ `DbStoredProcArg.setString()`
- ・ `DataForStoredProc.getString()`

- ・ J2EE ベース開発モデル

- ・ `jp.co.intra_mart.foundation.database.DbsConnection#fetch()`
- ・ `jp.co.intra_mart.foundation.database.DbsConnection#insert()`
- ・ `jp.co.intra_mart.foundation.database.DbsConnection#update()`
- ・ `jp.co.intra_mart.foundation.database.DbsConnection#remove()`
- ・ `jp.co.intra_mart.foundation.database.DbsConnection#execute()`
- ・ `jp.co.intra_mart.foundation.database.DbsConnection#select()`

- ・ J2EE フレームワーク

- ・ `jp.co.intra_mart.framework.base.data.JDBCConnector`
- ・ `jp.co.intra_mart.framework.base.data.IntramartDBConnector`
- ・ `jp.co.intra_mart.framework.base.data.DataSourceConnector`

- (6) ブラウザでサブミットボタンのある画面で、作業中にリターンキーのみを入力してしまった場合、サブミットボタンをクリックしなくてもフォームが送信されてしまう場合があります(ブラウザソフトの動作仕様に依存します)。フォームの送信内容をチェックしていないプログラムでは実行時エラーとなってしまう場合がありますので、ご注意下さい。
- (7) Permanent-Data Service はデータ保存要求を受け付けてから、ファイル出力遅延時間が経過した後にデータファイルを作成します。データ保存行為を実行してから遅延時間が経過する前に Permanent-Data Service を停止した場合、データがファイルに書き込まれずに次の起動時に反映されません。Permanent-Data Service は、以下のいずれかの方法で停止するようにして下さい。
  - `intra-mart Administrator` の「停止」ボタンで停止
  - `Application-Runtime` の動作しているすべてのプロセスを停止(StandAlone の場合は、Web の要求に対する処理およびバッチプログラムがすべて終了)後に十分な時間が経過してから停止
- (8) 以下の条件を満たした状態で `intra-mart` サーバを運用した場合、OSからのログアウトすることによりサーバプロセスが停止してしまいます。
 

条件)	Windows 系サーバ OS でサーバをサービス化 JRE1.3.1(または JDK1.3.1)
回避方法)	<code>intra-mart Administrator</code> を使い、各サーバの JAVA オプション設定に「-Xrs」を追加してください(設定ファイル <code>conf/imart.xml</code> を開いて、各サーバ毎の JAVA オプション設定(<java>タグの<option>タグ内)に「-Xrs」を追加していただいても結構です)。
- (9) JavaScript コンパイラの最適化オプション(im-Administrator で Application-Runtime の設定変更画面にある「JSコンパイル最適化」項目)を有効(true)にした場合、環境によりJavaScriptのコンパイルまたは実行時エラーが発生する場合があります。その場合は、最適化モードを無効(false)にしてください。また、それでもエラーの発生が続く場合は、`work/_functioncontainer` ディレクトリを削除して `Application-Runtime` を再起動してください。
- (10) 弊社より提供される `intra-mart` ベースモジュールのデータベース構成はバージョンアップおよびリビジョンアップ時に予告なく変更される場合があります。そのため `intra-mart` ベースモジュールで提供されているデータベース構造をお客様が変更したり、またはそのデータベース構造に依存したアプリケーションを作成した場合、バージョンアップ時の動作保証の対象外となります。ご注意ください。また、公開されているソースコードをカスタマイズした場合においてもバージョンアップ時の動作保証の対象外となります。

- (11) サンプルデータは、他のパッケージのサンプルデータと同時に入れることはできません。また、一度入れたサンプルデータは一括削除できません。サンプルデータを一括削除するには、再インストールおよびデータベースの再構築をして下さい。
- (12) <ApplicationRuntime>/doc/imart/WEB-INF/classes 以下に記述ミスの Java ソースを置くとコンパイルに失敗します。その際 ApplicationRuntime を再起動させる必要があります。
- (13) ApplicationRuntime において、サーブレットの自動コンパイル機能を有効( 1)にしている環境でサーブレットファイルの更新を頻繁に行うと、ApplicationRuntime の動作が不安定になる場合があります。その場合、ApplicationRuntime を再起動してください(その際、IM-Administrator での再起動ができないことがあります。その場合は、インストールガイド「4. 起動と停止」の手順に従って再起動を行って下さい。 )。

( 1)%ApplicationRuntime%/conf/http.xml ファイル、caucho.com/http-server/host/web-app/classpath/compile="true"の場合

- (14) ベースモジュール Ver4.0 では、ApplicationRuntime 起動後の初回アクセス時にサーバの初期化を行います。これには数分かかることがあります。
- (15) 設定ファイル(\*.ini)中の一部の日本語(2bytes 文字)がページベース開発モデル API System.getValue()メソッドで取得した際、文字化けします(\*.ini ファイルを SJIS(MS932)で記述していた場合のみ)。

文字化けする文字は以下の通りです(2byte 目が 5c(バックスラッシュ)の文字)。

ソ 噂 湮 欺 圭 構 蚕 十 申 曾 箆 貼 能 表 暴 予 禄 免 喀 媾 彌 拿 朽 歃 濬 畚 秉 綵 髻 藹 觸 體 鐔 饅 鷓 僣 砒 纒 狃
--

回避方法としては、これらの文字の後ろにバックスラッシュを追加することで回避できます。

例)STARTPACK\_FILE\_UPLOAD\_SAVE\_TYPE=職能¥等級

- (16) **intra-mart** 人事管理システムの制限事項および注意事項

- 組織を表示するコンボボックスなどをスクロールマウスなどで連続で変更したりすると、画面表示が崩れてしまう可能性があります。
- マスタメンテナンス画面において、登録項目に対して登録できる文字数より多くの文字を登録しようとすると DB エラーが発生することがあります。
- いくつかのフレームに別れている画面で、あるフレームでデータが削除されたときに、他のフレームにおいて削除されたデータを参照しようとすると、エラーが発生することがあります。

## 4. マニュアルについて

「人事管理システムマニュアル」がページメニューに登録されています。

[人事管理システム]-[マニュアル]メニューから参照できます。一般ユーザの方に開放し、ご活用ください。

## 5. 著作権および特記事項

intra-martは株式会社NTTデータイントラマートの商標です。

Java およびすべてのJava関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国ならびにその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows 2000およびWindows XP は、Microsoft Corporation の米国ならびにその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

その他最新の技術情報やパッチ提供は **intra-mart Support Site** を御参照ください。

**intra-mart Support Site** : <http://www.intra-mart.jp/support/intramart.cgi>

以上